

倉庫発『食品トレーサビリティ』

～ 倉庫の機能がお客様の安全性確保につながる仕組みを公開 ～

倉庫事業を行う阪南倉庫株式会社（本社：大阪府堺市 代表取締役：堀畑浩重）は、商品が入荷してから消費者へお届けするまでの、商品管理機能を強化した仕組みを公開しました。異常が「いつ」「どこで」「どの様に」「なぜ」発生したのか、お客様が調査のために必要となる、倉庫の商品管理情報を提供します。

【背景】

食の安全意識の高まりとともに、消費者の目も非常に厳しくなっており、企業にトラブルが発生した際、原因を特定し再発防止策を策定・実行したかについて迅速な対応が求められます。

物流事業者である当社も、お客様のトラブル対応には速やかに協力することが重要であり、情報を常に開示可能にしておくことはお客様への信頼にもつながります。

右の統計資料は各分野における内部トレーサビリティの取組に関するアンケート結果です。これによると、各業種ともに30～50%が「入出荷を対応付ける記録」を保存していないことが分かります。

また消費者に近い業種（小売業や外食産業）ほど、「入出荷を対応付ける記録」を保存していないと回答しています。

一方、当社の商品管理情報は各業種で保存されていない情報も含まれますので、お客様が自社のトレーサビリティ精度を補強するものとしてご利用いただくことが可能です。

【仕組みの効果】

当社の食品トレーサビリティは、「何日製造した商品は、いつ入庫し、いつどこへ何個出荷した」という情報をWMS（倉庫管理システム）に保管する仕組みです。

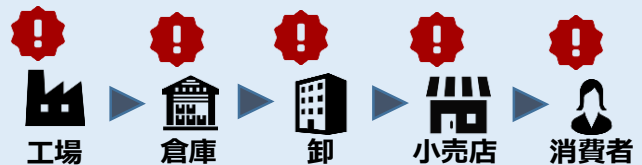
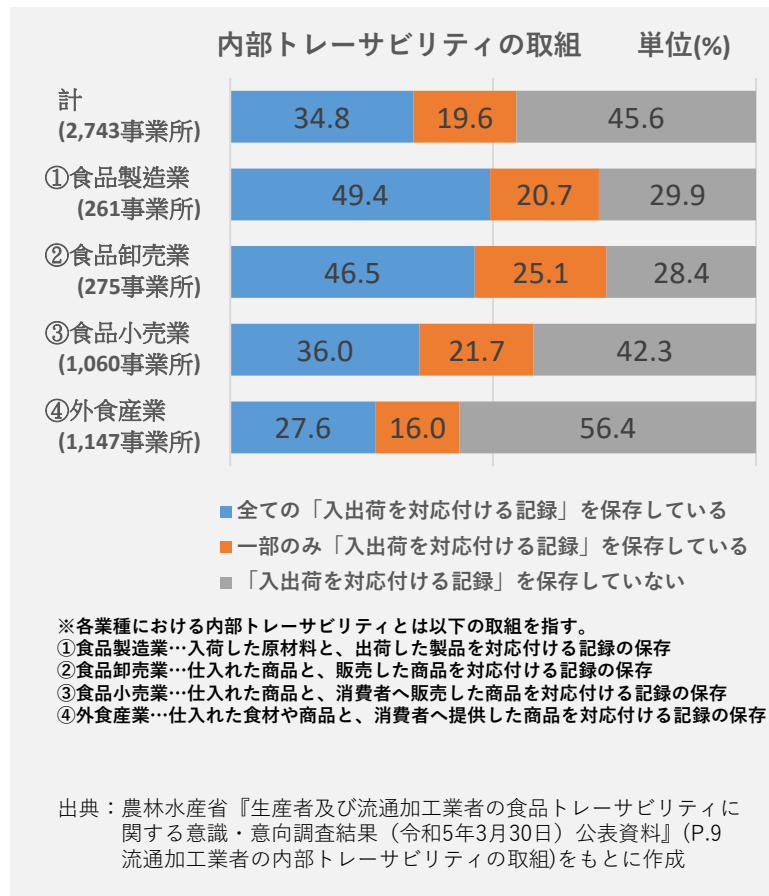
お客様から「何日製造分の出荷先を知りたい」「この出荷先には何日製造分の商品を出荷したか」などの依頼があれば、当社はただちに情報開示することができます。

お客様はこの情報によって、①製造過程への遡及調査②販売・流通過程への追跡調査における対象の絞り込みが可能になりますので、原因追求にかかる時間を短縮できます。

また消費者に対し「この日の製造分は使用できません」といった、正しい情報を直ちに発信することも可能になります。

このようなリスク管理に対する取組は、取引先への信頼につながるだけでなく、消費者にとっての心理的な安心にもつながります。

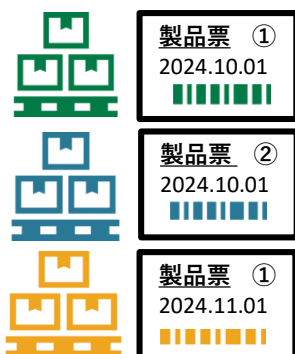
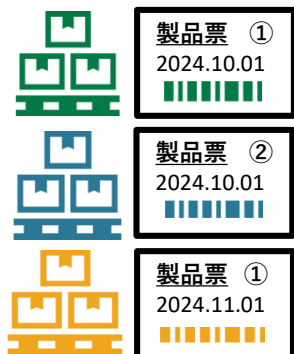
当社は物流事業者として、お客様の「万が一」にも迅速にサポートいたします。



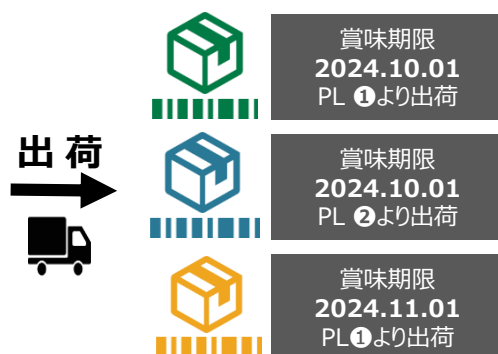
【食品トレーサビリティの仕組み概要】

- ① 製品が入荷した際、パレット単位で倉庫に保管します（各パレットは製品票ごとに管理されます）
- ② お客様の出荷指示に対し、パレットごとに商品を指定し、お届け先へ納品します
- ③ 「いつ」「どこへ」「何を」「どれだけ」出荷したか、実績データをシステムに保存します

お客様



当社



お届け先 A



お届け先 B



お届け先 C



(例) お客様製造時に2024.10.01（製品票②のパレット）へ異物混入したことが発覚したら・・・

倉庫ではどの製品票のパレットから何個取り出し、いつどこへ何個出荷したかを把握しています

→この例では、お届け先Bへ出荷したことが分かります

直ちにお客様へ報告し、対策に着手します
→消費者の安心・安全につながります

【効果】

- ① 当社のWMSが管理するトレーサビリティ情報を、お客様と日々共有することが可能です
- ② 万一が一製品回収が生じても、お客様の回収範囲（製造期間、製造場所など）を的確に掴み、過剰回収リスクを抑えることが可能です

当社では、お客様が求める機能やサービスの設計～開発・提供はもちろん、物流を通じて社会を繋ぎ、支えることを使命と捉え、これからも尽力してまいります。

【サービスに関するお問合せ】

阪南倉庫株式会社 営業部（担当：泉、小島）

TEL 0725-23-7022

FAX 0725-23-1144

Email eigyo@capsohn.co.jp

